可笑記評判

十

へ遠13
1701
10冊

1701
10

可笑記評判巻第十

第一忠功を誇る事

むかしさる人の子ハ獣がるとして分命を遣る猟中狸や兎などをとるべきよりあれ犬を根義して飼ふてめれとも獣をみかけとりつゝて後ハ犬しもやゝさるゝをみてこそ犬とゝらうてみてゝひはを剥とつく用を勤ゆゑ人合銭をとりこすゝ用をもつて侍も合銭奉公の用後てのけ者の迄で言ハ情ともひけるぞんりんや一分の迄賞ものあづくすきぞんりん廣ゝ角よをこゝろ自命社の者ものひとゝ人僕若ゝ人と異をさゝとゝ

侍ハ弓の本に人を射籠て表紙侯人どもくみして
第理無無無想ある所いくさみあるもの人
もろ人功名を爭ふ所に
とくわざくり鄉義し逆立をとりすめなんなしそ
を実とゆるくさ〇こそ
海とくわ月一色に
せくさ又切腹すれ
紀ちくぐすおりら双方
もこそ北をきくせ西
をやうに敗あるゆめく出に人
ゆたあるくず逆立表紙ハ古今ゆくうきのあり
ことを納を雅房ことゆて文藝くうくもるへ

わり浦の波くもりてうるをあさびやとゆりめ
しくるゆ雅房ハ見れわしとゆひくるへ河
浦の波ゆとりてゆくくハ呂人今濃ゆきたそ
こゆをとそくるとゆくれい何ゆるやとくるゆ
大仲を雅房こそ禮に餌とくんとてまくるだの見
とくくゆ切れくつと海くゆくゆ中をほうり枕を
とて跡まくゆくれくわ
ひ雅房ハ見くるくゆ
乃見ハばくゆ
評曰歟とくつて
ゆくう浦乃高狙の
見くゆ下れくそくて

蒯通といふものにすゝめられて謀反の心をおこしけり
されバかゝる高祖にめしとられてうしなはれけるとし
まことにその詞に狡兎死して猟犬烹らるゝ飛鳥つ
きて良弓蔵ると韓信がいひたることばにもよりて
此頃の趣向よりみれバ項羽と軍せしがもはや下
ハ忠貴なりともおびたゞしき械をもちまれども天下
をたもちてはやうなれバいかゞしけるにや狡兎つきて犬
もともに烹らるべしとおもへバなりそれにとも
ても表裡ある中に経基がかうしたるありしバ
このやうに書たる其下国家に伝へたるはかりの表裡なるにも
あれども表裡ある此所のもの経基のものにみな
あらたに町人の職人商人などもいへどもや町人商人

大かた人の入たるはすまひ経基表裡ありとも
ちかき所にも見えざるまゝに門にとゞまり
経基表裡ハもとより人のこゝろありけるに表裡ありし人の
あとに入いふなる表裡ありて後までも地あるや
何ぞといふものゝたゞしきのふるまひともしれど
ぞいふに其所ありて侍人やその功の侍
いはるゝ所に極意あるに中にも御存のあるべし
あまりにさやかなる思ひの外の仕合してかくのごとく
ぐるまでにいふものよりわかれやうにかゝりて
おほき逆賭岩骨田曳をもつて積もる此大功ある
みちとも遺くひそかし人の縁所の度ともおもはず
あまたのものに乗乱をとゞめずなる事を難きことなりと也

こゝろの物乃中ハ忠功ありし所也さゝへハそれの
みな忠功あるにその甲斐なくハわが命のかろきは
かりそめにも右ある亂明す附さしる忠功ありし者也
秋田自畠山梶原みな須らびより落乃支のよて経
ひしこれらハ斬すく賜させ忠功させどもわらひハ讒
言又ハこゞりゑんらく自此の忠功みな無子孫より
力ありさ辛也あいづらまる所忘れ乃果るねれ
天命といへん欲るまき因果といへん欲忠功もあき
へいうへびろうよわらて見帝しまこれやかし
手内ゆかくハその主ぶよる忠功まつみりて人民
あまどりまる民眼てゝみえをたゞしく物外を慚愧
忘れどもく越口し罵詈をつまはつくすゆへとみしるり

然あり猫ハ鼠をくれとらせとて焼りを中也すぞ事り
次ハ千讒言表裡ハおそろしき物と云事ゆゑ也
楚といふ国より魏といふ国の主へひとり美人を
まいらせしが魏王これを愛しのちまりぶ近
寄りて魏王の后鄭袖といふ人まで世あいしが其の
美人をいとおしくあいせられける由を毎さり
かりひとつはわが娘のごとくいつくしみて魏王ハ后の
おしき心いかに[illegible]さ事をよろこびのみか
后の美人に申さへらるゝやうハそなたの鼻いとゞ
くさくぞなたに魏王のつきゝあひのうちに
まみへハ袖を鼻にあてゝ宿むかへハ鼻を被ま
ておはしますとそのゆゑ美人へいとまりし[illegible]とて[illegible]

むかしハ鄭子鼻を讃てうつくしきを悪けり
くわだてしめて后のかしこき人ハ鄭袖まくらのちからた
まの息のかゝれとやうにとこそこゝろうべきとまた
みなよりつくやうにて美人の鼻をそこなれけりといへり
表裡の讒言にハみなかくのごとし雅房の手紙に
いふべき讒に乗てりきをはと吉田の色好類さかすひ
きはりしそ

第二一番手にんハ筆にすれ中すきます
むかしよりの人のうちハ筆先物を見そくて時ニまた纏とはかく
と見つやみ歯ハ咲く寸を神にゆるりてくびをまげ口と
あさ眼のすみをうくと歩みてゆく娘不同いとあつまご
くらしくのあり

第三軍陣のの事
むかし某乃甥右衛門とかけすぢ何か合戦九陣
を語りてきかせしをりハおもしろき合戦の場へ出しときを
ていろの合戦様ありて雑兵一騎種を合せ七騎より
されすハ一人も味方見えまじとおもふ家臣の分別も
なくふひ定むかうしもうて我合戦に出たる者が初めて
けりものゝ鎧と乃きしもしとぞ掃をして
すいを附乃運に寄り矢鉄砲あたりこよく城中のまた
ても運つよくあわでありすでとも手にもきかで右
よく陣をはなれの鎧うち纏して方ゐ名の死をせしとおり
評曰せり合乃時ニ味方を見れはまみをもつく
足跡とみくをせゆへでかずかず同去する何や

ようわりとたち花乃つゆぐさり也み見ハ一騎ぐらい
ぐらいそいまあるこんぐもそぶれそ帰よのぐみてそ
とそわやもーぷそんや市ようんぐをもくぐいそのの
場乃ゑ尾ゑ之を生ぐさりもとやうれき四ゑ
をゑそわく送もそぐ也死ゑゑ手ありとゑゑり
一軍二軍ゑその人数ぐて極ゑりゑんよ軍中
乃はを破りてうゑ市ゑんハゑぐりとゑぐゑ
日慶ゑぜとゑ市ゑ毎軍中乃はを市ぐ強
その法を毎りてゑ知をやりぐゑず運ハ
ゑ日りと伝ぐゑ人ハみ天のゑゑ言乃ゑ極
ゑんや強ゑ市ゑ死ぐゑハ強の弓とゑまもぜ
はと辛乃ハゑ現ようのゑりとゑ日也

第三方に強ぐらひきゑ手
むゑりゑゑ北陳孔章とゑ市賢人へのゑ市ハ人ゑ
遠ゑ地ゑりもんゑ日ゑとゑ市ゑんとゑ市ゑりゑ強
ゑ形ゑて市ゑ一ゑそれいむゑの乃人ゑゑ北ゑ也
市ゑゑ也指合ゑゑ人のみ乃市ゑゑ也陣の人市ゑゑ也
景振乃ゑゑ孔市ゑゑわゑ也さゑゑ今ゑゑゑゑ
とゑゑ遠不市ゑゑ市ゑゑ乃ぐゑゑゑ也遠ゑ用ゑ強
指日ゑて八面日ゑわぐゑ強ゑて強ゑ市ゑ日あわぐ
ゑゑゑむゑれんゑゑそゑゑゑゑゑゑ形ゑゑ市ゑよ
日ゑ遠ゑ四ゑゑ市ゑのゑりきわゑきのゑゑて市ゑゑ一ゑ手
も以ゑ及ゑてぐゑゑゑゑわん強ゑよ市ゑぐゑひゑを手一ゑゑて
池敵ゑを大敵ゑ市ゑゑ市ゑゑ遠ゑ市ゑゑよ北市ゑゑ手ゑ遠ゑ悪ゑを

まさぞたるり一粟ず火の烟みさらよりもすかとき〳〵ハ
ここや尉それども赤とやく時ハ走しかし馬よりり
岨乃あそゐとゆくへみハて橋を落りけハりあわず
下馬とせよくよもつやまらととの岫ぞ山路也非
亦余辛苦りまひく舟路終でり人〳〵ずいわも
く命すき中ろでもわかる也又余ゆかしくでぞ必ず
日本綱意より别れむつびく心ざろうてつか死り於
てこぞ乃わら母安かひ牛足くぎり蹄つき中よと
なまかくゆくし

評曰犬ハよく分市かとまつく好とやにん気よく
まのいう味もつく好とせんでとつり大弁ハ訥乃で
としうくらき弁舌ちいハ訥かどくとまく滞らず

なさきさくとくしてさらやら形りまうの风ハ海
わせく〳〵わまりよ趣をいひまぞせえ平那ですいひ
おやまゆ年しをりの分り万年よきかとがとふり
なかれぞわざりひの稚と形りの比あよ聖人ハ先過不
及此いましか风よまつく其の中ととゆ年ときなく
なつあり

第五万ず後と云よつき年

むかしさろ人乃こうハく万年ときひく時理乃こゝを道
くゆく人まき年也時理のこゝとかハ先善乃かさく時よハ秋
乃りみぢせんとき风それ秋のりみちずうけハ春の氣
さかんけを云ひ冬のさむきけすハ春のわくりもんけをと
云ひ春のわつきけすハ冬の氏宜のもんけすと云ひ夏かくハ

時くきけをとひ時ハ兩方ともひものの
ちかけをとひとり切ゆちぶまてうけを
冨もんはうけをとひうつきはうけハとり切ゆちぶわく
ものをとひうきけの年ゆうへきこゝをとひ年ゆう
きうけハわうきけをとひ人のちゝきけのいうかり
しけをとひゝゝ九時ハちゝうぶきけをとひゆうゆ
ゆく辭ゆうけの乳きくたゝぶかゝへきけをとひ
乳きくゝゝぶハけきけハけて辭ゆうけをとひて
すゝをゆけをつゝぶちゆく傷討ゝ
評曰ハ新ケ乃年ゆ年ゆうきけハけ
ゝへとゝものゆうけをゝゝぶゝへハ食物ハ味
ものゝゝぶゝゆゝ音ゝ後ゝてものゝ

よ味のゝゝゝのゝゝみハ足も岩ものゝてゝゝゝ家へハ
ゝのゝゝ月ゝゝゝゝうり躍ゝゝて音ゝゝゝぶゝゝ
今ハ杖ゝゝすゝゝゝてゝ足ゝゝゝゝゝゝてんの
ゝゝ月ゝゝゆゝ年ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝ筋わゝゝれ繁ゝゝゝ力ゝゝゝゝ
ゝ孫ゝゝぶゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てわゝゝけゝゝ年ゝゝとゝひゝぶ
ゝぶゝゝけのゝゝ今ハくゝゝ後海ゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ後ゝゝ閉ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ坐ゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゑびすうりへき半うりこびすの一老くに落ちうき
時の半とうりやうんうりやうりやうりて死めづさまのちうきう
とうのくに落世のうりとうすとうすべうりずと書うてはし
うぐいすぐうんぐいすべうりとうりて猫の隠居と
いうて面いあるゆづりかつるとうぶよ殺しかく清の
ゆうもいうとうふうもわうべうわうぐいすかうとうて
うう○鬼毒の老て落ようう熟とぶとうの
みうとうり年老ていに落世とうぶとうりうわうと
も死とうとうのぐわうきいうまぐ殺とうり年
老ていにうれうとうて書ううぐうう面あうとうう
けうくうぐうとうさ秋の鼠日出の日ぶぶぐとうう
晩とうん半ちうう

第六段の国魚の年
ひうりうう段の世れ魚の両の時ようぶぶ魚とうく
うりうひて分金とうぐぐやとうひうれうりあるひれ
ぐうの年日でひて魚の魚の賞うあひまぐ分
金とうぐうきやうにうわまうぐ魚つうりて魚うう
てはうりあうふうあう一面の絵魚年一日でりみくあぐ
きうう七うぐ清水とうきわぐぶうぶはうべとうう
ううぐやうあうひいれりあるひうわぐみ六両うりて水元
満日りうれうぐうう○つうべの賞魚はう賞あうあけまぐ
分金うぐうきやうにうぐりうの魚屋れりうう人と
うふけうとう国働よ合銭ありて武具とこそ用うし
れ魚ううのあうにうぐ時武具とうりうんとうりひ

きわぐ〜の儀は上方のうつくしづくやうりのして男うりと称る人は是をまつ乃不能とうんぞうとつもむつて手ぶり

評曰くるうり中は依くこと出も一概しうこさう

やりうつの丸薬咎いそのうどめい物と幸ひて夏人毎つけるに其大日でりよ蓋く肉ちくで腐くり

こまをよ仕ほどいくこ市よわつて桑実の粉とうるを

きわぐ〜の鳥はみをの吹ちくれとづの色よみをのあ

明りをづきやうあ帰去へ年ちよわつて項羽と鍬

ういに新のきくもづくとつくこ様乃ちとはのり

てちうは物こうりうわぐ人の力とい琴丸多のこと

洞ま乃金ぐうけい解てちりあ成ちせ行こもも分

とれうこさいみこの織と智てこうこもせといり。

第七淫蕩信と山伏いこうしのり

しつ淫乱乃方家乃信と無邪山うけわ乃山ふうしと

つまこ伝同てつくかしづ八何とうこさくく丸威徳を

ちのかしつこうつくくいくく様ゆ〜も山年月不去

不年のこうはいつこうんと服金毎邪乃男ちはたうのひ

信乃ぐうくく丸信とちこうひ中央の富物こうけく

ちこうの市乃家信ありこれ信えの威えこうて

此月の中ゆる不動乃像ほりもあづ〜ゆいのり

ずのこうこうと他は様力こり火焔と初て丸せア

ちも七拙い信乃ゆくこいつはとこれこり信こうへて

いくこうも弾宗とちすいあり味噌ごつの一みぐりこう

こう飯乃弁ゆりぐ行こうゆくこうちんこうあり一部会

仕合しらバ地獄より来るを利して此者の火焔吹
ともいふやうなると云出づるも様くにいへるやうにして
此説也よくよく人のいふる事を知りてわきまへ絵像
乃不動をさし置きて人の数珠をおしもみくりあみ
日まうで以てのわざ由とも云ふ絵像の不動を礼立
て山伏の胴中に見ずがひを巻きり火焔とらしき見えし
より山伏ハよくくるまんして見ゆる餘所の侍
きゆるくちのりのせらは侍もさしてわざてそや
ざんと云ゆるも衣の色もあかくなげ布下半着とりて
つらの山伏の胴中すずかけ以て数珠をくりおりて
不動をくづりにかかとさへとなひかわざ火見へも
こえてくらせんぬりしきおもや

第八　ちゑハもちの切てよき事

むかしさる人のいへるハ侍として金銀をおしく思ふものハ小身
なるべきもの也といへれどもしかれども其ものハ武道具の用
意あるべき侍の心がけとしてはやく心得るべき事也情で
うちとりてハ小身なるものハつねにわずかなる扶持も情け
なきものハ仁義の道をしらしむる侍の仰し様ハ紛ぎる
とりあつかひて無用の費をせし侍こそあやうくれとさいふ武道
具の用心をもちいて何となくして何ゆゑ軍陣に
る事はともすべきをまかりおり今の世の侍ハ小身なる
なれ金銀をおしく思ふ事ハ引こみて町人と成て極山
あざさみ女房ぐるひ食物このみ衣服も自由にして銭をたま
わりさまもの銀ひのぐずまでせさるはしてぞ侍が

わるものを金張やらく之人をたべさせる事無也
いとんやつ国一郡乃山を一時に伐はてしきやつく
をくわすりは金張をむさぼり為くうへをつぎやらん
ゑんのをるをそうりいやのびてもものしくいさぎよし
そこを細い山を無中に伐はてさぶやく建築をひと
うけものくくまきいやをあるを七と物
をくをひまるをとをいつわりの山をりはつして金張の
ゑをあり入いつわりで山を倍張をあきわてもさつくと分
義をひすをいしをとをあるをでは乃山を苦労山をつくや
伐ををはつく法奥寺をつるを山を代山をりはつして
伐をを海ををあるをとやをわでおたををを乃山をり
はつて山を乱山をつぐをとをの手ををきをずをを弥為く

伐をを海をて伐ををはををむををひてををみを山を破
滅をを伐をを数を人ををはをりをを伐を山
評曰人ををはりををはをををををををををを弥ををを
伐を金張殘ををを物をををををををををを人
むを手をををを生成弥をををををを人
乃ををををををををを山をををををを手
をををを少分をを人を山書乃をを知をを
伐をを用をををををををを乃信を
義をり義をををををを信を
人をを人をり世ををを義て衣裳を鞍刀をを殺
を力ををををををを結をり伐手を伝をを
をを乃をの知り一をを命を時間信ををををを

扇屋定右衛門の和しこそ門つきあるとも是ある
半元切なりさわぎ仕るつもりそも張のあるさよと云
仕るつもりなり
次は金張あるぞいろみ町人ある人と見る半侍ども
ちあるものくるやうは是ある人や家のあるあるめるあ先組
乃勢功をむりくさべき是程あるぞ侍冥加乃つき
ようあるべきは飽きそこりとつきそ分と乃あるべ
あるべき栄耀乃ちにあるぞ分乃ちり切ちこ
金張乃ちあるべ備人あり分乃ちり切あるは張の備
あるきあるは知り投扇方をこり越くまづ今日乃用
とは迷乃ち侍功あるりこの家はを云ちくこそひく
信あるべ乃ちあるべ侍人

次は乃ちり切もあるべ乃ちり切もあるべ乃ちり切
をあるべきは利はそこ利はそこ原町人ばいるべ備あ
づ乃ち備張をあるべ張をあるべ乃ちずいるべ町人は乞食な
あ人ちるべ乃ちみ何時乃ち原乃ち補及張あると町人
乃ちみは利張は乃ちるべ乃ちるべ乃ちるべ乃ちひ
ちあるべ侍は備換乃ちあるべ乃ちるべ乃ちひ
陸奥守乃ち平乃ちるべ乃ちるべ乃ちるべ乃ちるべ
多別乃ち更平乃ちるべ乃ちるべ乃ちるべ乃ちるべ
ちぐれ乃ちるべ乃ちるべ乃ちるべ乃ちるべ
中は乃ちるべ乃ちるべ乃ちるべ乃ちるべ
乃ちるべ乃ちるべ乃ちるべ乃ちるべ
第九乃ち四乃ち家三乃ちる

むしの列ゆりのいろ／＼すみをかりうつり
此義隆の部人へ／＼ひ／＼ゆりのあそこの
くゆりて契りまひ／＼ほ／＼ゆりてゆ
ゆりの乃いろ／＼ゆしてゆ／＼ありわ／＼
分をつくして人へ／＼ひ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼人
貞女乃ゆめ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼人乃
ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼

第十度亮ゲ馬乃事

むし／＼度ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼人ありゆ／＼ゆ／＼て鄙より出ゆ／＼
ゆ／＼で出ゆ／＼筋乃ゆ／＼ゆ／＼て亟相のあるをゆ／＼ゆ／＼出るゆ／＼
主乃ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼相ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼人ゆ／＼人と或人へ
ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼相ゆ／＼ゆ／＼

ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼
ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼
ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼
て冨ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼
みゆ／＼ゆ／＼

評曰今此世乃人へ猾ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼
す他人へ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼
ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼
ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼
ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼
ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼
ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼ゆ／＼

といふハ此年也むかし宋の景公と申すみかど
おはしけり世すゑの時に熒惑といふ悪星あらはれて
心といふ星の座をまもる。是によつて子韋といふうらなひの聖
あり心星ハ宋の国乃分野なれバ必ず
君乃御身にあたるべしとて臣下にうつし給へと申
景公ハ熒惑もそこにて心星にうつす是れ君乃病以人をかへ
ずむかしより臣下へうつすべき事ならずと申也臣下ハ輔
けるものなり熒惑とゆすそ景公乃身をつく臣下ハ我
足なり股乃病を足にうつしたりとてみなもつて
いづれもおなじことと申すやうさればとて百姓にうつせ
と景公のいはく国ハ百姓あつての事なれバいかでか
いまへと臣下みなもつてやうやうぞ歳にうつすべし

景公乃頭くく年よりてよろしひと穀登
すれバ百姓ゆたかに国ふとくしてゆたかなる事ありがたし
てゆたかの百姓をころしてなにゝかせんとぞいひけれバ
臣下人此事ゆゑあるべからずとのたまふこれ熒惑ハ
ありがたきことかな景公乃病をうつさずしてまことに
それより廿一年乃寿命をのべたまひけりとかや
誠にありがたき御こゝろざしなるべしめでたし
善事ハ軍法ハ常にあるまじき事なり
むかしより人ハこれハ軍法とも云はかり合戦乃時すみ申すの
ゆゑなり君臣乃人をみなせめてゆかしくさうらひてはかりごとを
もつてハ謀略を常に陰をつくる天下をあらそひ敵をおそむ
くわだてかりふんぐ合戦にあつかり申す事なし

いくさの吟味せしことは佛神に此軍法と知べし
詩曰軍法は朝寝起ろ常にありけれ
よろづひとへて世はいとなき事ありといひ筆を憚
幄の中にあぐらしてまたきもかくれそぞ何に
かせん常に清よりも無常何にしと也留怠
此つまり馬されば日ごろの剣との無分別
ぞあすは御まへてかくひき岩窟とある人つくす坊て
見ごろ見。傍らくはかりぬる人の所の此に能者大
すみ沖にて張るべき思ひしとつゑん中幽の地
衛の鎗がれ鋒をもやし中かひ今世の人ならぬ
かせまみなんとも女房とふるまふ經の経し
よろづきや

第十二　百年に三ヶ所の事
むかしある人の云、今世南無大蛇乃かたちをまねる
頭人ともふかき所の人のかたちは大蛇をまねる
いわれなりとこころそくふかくこころもちの
宗親鬻飲食の類腥賢佛相とこそ
る獣山水回廊なりとわかるゆる物をまねく人
此ふかくおもひのかたちを大蛇の乱をまねく
むやとふかき所の人のかたちはそのやうなるすと答
まうせくつえんまる人ありかたちの大蛇をもあらん
そうされは主親をとりて忠孝をまもり常とや
こきりぼして仁義をおこされずわりひは常に滅し
人戒ともそむきたる人は獅猿野干毒蛇斑猫ひとつぞ

さてさて人のわるさ程ちがふこと
歟はかうえさく死をほうこうせさい面をえれみも云ふ
ちりはらふ以ての外とてもわるさ出来の
よいわるさえんもむつかしくてやうな
評曰若の者奥ゑるみをこたりして人ゐ此ことを
乃ちやうぐーまふとうそねぐーこたいそで
ろう人ゐ氏あるわるさまふのくりはうぎんや地ーて万
物ひーくーめぐみくうちゆうきに氏ゐ乃世界
ぐみくしやす半也ゑるきぐりのをうて人此
食物ーとするを以ての人ゐ世乃人ゐひこの
ところ乃ち佛氏ゐ此殺生ゑ戒い是
儒ゐ此事此中ゐ仁義ゐ教ゑるいわゆるわく

半ゐる乃意也をりぐうこ法人ハ絶仁義いきす半也
ひーりうこ此法ゐ鄙ゐ千金翼こうゐ諺書
をつうり人氏ゐすもーー陰陽ゐよりくこ氏他ゐ乃ち
ぐ乃をこの善乃中ゐ生類を苦ゐつひゐゆ人
ゐこ乃をて氏他ゐ乃ぐ氏ゐりこ後生類ぐ
みゐこう陳ゐゐ此代第氏月ひこうゐゐ
漢乃刘云ゐわう人夢ゐをゐて刘云此四く
天ゐのくみをうこうぐ此穀を生ぐて食
ゐ乃ーゐ獣を生ぐて肴ゐゐいこゐみゐ人此
ゐりゐゐこわーゐ法人げゐのゐ氏ひこりこの時
孔孝義ゐ乃ゐ氏下ゐていくこ生ゐ此ひぐす
ゐりこれ万物乃生ぐるものくこ他乃ゐ氏ゐて

世すぎする人のくるしむ事ハ万物
よりそこなわれて命をうしなうさまを万物をとりて食ず
らひ出わるうを他性物の中ま人を第一の先きとする
いわれハ智恵乃万物よりそこれしるかゆえ也しかる神
農そこのくすりを手ずから嘗て毒ある乃毒ある物をとりて
のちの世の穀と食ずとりこれ天地万物をとり
ぶる中一人のくるしむをいとうべき物收の
人ほくらの断乃ちほ養これをとり物收乃多
き人をもつて断のくるしむをいとうべきなり人やはりと
思ふけい也穀をもぶるものをもつて中のとり人
此をもつぶ海をもつて人と万物とハ生い形のぶ生れ
ぶる数ハ別乃数ありとまつ人をもつ

伏ーくるをもつ地
就四をもつ切盗取ハ当えれるしめるあるべし
中海をもつ生れ天命乃地をもつ中一当乃生きくる
くるをもつ

第十二　悪人ハ長て生てをる

くるくるを人乃をるハ悪乃つぶ一ほん中ハ何をる
ものくるをもつ中後ぶーをもつ海ぶーをもつ海ぶ
食作人ハ稼ーを米一撮をもつ海ぶーをもつ海ぶ
をもつくるをもつ海ぶ人ハをぶ海ぶ
をもつの人間をぶ平やしずロをもつ海ぶ
をもつ海ぶわるをもつ海ぶ
をもつ海ぶをもつ中間乃をもつ海ぶ

又ハ田つくり畑うち獵師あきなひ細工日用をわすれず
もなく女らしき所ハいさゝかもなく又一攫も
慈悲をもわきまへしらずに今時のさむらひなん
どはわれも弁舌よく口きゝ世にはびこりたき
旅人どもハやきさまなれども田畑つくらんもわきまへ
さらく獵師せんもせ背をぬくこと辛苦労
をいとふてこゝろさしいやしきやうなれども吟味
なすこと猿楽などをすれいかなるものすきなり
すこしはかゝる背やこれを請けはみなをさ
ふべし但し儒者の人のこゝろへまもらいはるる人あれ
はかこのみくわだてこゝろへもるべきとあり
とをしはわざなりのハあきれはてぬ世のありさまなり

はかりごとをもつてひとつに侍のつねにまなぶところの人にかはりて儀
をもつてくらへみる町人とおなじくこれ侍を
主一味のまじはりなしてすこしもまさるは利欲をあらそ
ひ町人とおなじことにてたゞ武士ひとへに人とならびて
儀をしられず伊勢天神春日明神八幡大菩薩の御
託宣にはこれ末世濁乱のみぎりには利欲をとらや
いひ侍が雑人とおなじく妻子とのみ異なるはものを
くらふ俗人の如くにてその非をとがむすなれ
ど侍が雑人とおなじまじはりともに馬の莫大に如
異人が濫りに儀をしとみてそのまゝ返しにくて
末代の世にくらべてはゆく世のすゑをみてすぐさ
人のこゝろ利欲にひかれて如何なる侍へいつしんや

下司(げす)なれバ、ころじきせん手あまのうらびわんとう
りしに辞しけれバ中ゟわろうじき也人ゟさ
れは慈悲(じひ)のいたしかたも一文ッつとらせずしてなみ
こまか細(しさい)ハ人が後学とてせぜんバかくのごとくなるしはらず
さわるゝハいえ死(し)めるのうかしさにゆゑのまゝ田畑(さく)
をつくりわするゝひとし細工(さいく)をつくらしまうし猟師(れうし)は
殺へしさわしてよろしき殺生をしさわして慈悲とて云物
もこゝ仕様(しやう)やより出るあり是ぞ慈悲(じひ)ありまゆゝ
まあじきころふかきとめ時はこゝまわりて慈悲のうへく
わるき事のもとのほろとくすづきのまゝわるせそれ
まじきさまの事ハそれめがたき天の慈悲とやみすせる猶
あやしすゝもこゝな人ハ被慈悲(ひえ)の後ハ報もむくさ

こゝろまゝくちすまの慈悲(じひ)ん者のきつけるやとなり
めしわざそりまゝ人々わとも無代のくくハそうへとき
もいやきゝも老ならしわうきゝわ於も俗(ぞく)に男しせ女
もみなまつゝ地乃むかさき市へハいのそてん中さゆすく
おもよさきたのうゝ人ハいかつそてんばりかくこゝとなく
みことし於そわあがひびん者をしのかて慈悲乃ハ
ろいそんまつりとて天下国家(こつか)者中さめ於るん大慈大
悲てハわやさまかわるべからず、

評曰儒者(じゆしや)ハ仁とそへづも仏法(ぶつほう)ハ慈悲(じひ)とゝふづくすり
まうせつ神とわゝまむ也いふ事ゟ慈(じ)ハ苦(く)を抜(ぬく)也とむ
悲(ひ)乃字(じ)ハ楽(らく)を与(あたふ)ゐゝかりされぞ仏乃ま一切衆
生をあうわゝ三界流転(るてん)乃苦(く)を抜て無為(むゐ)乃楽(らく)を

いふは座敷なれどもひろくこそあれいづれも只
ゆへ辞不具の乞食非人はかならずするにあらずんや
あれ孫々ゆへれとかくしておもひならざるは
平等の大慈大悲といふもの也又仁といふも辞不具非
人は物いはずんばその仁といふべからず
天下国家一郡一邑のわかちにてもなくあまねく
ひろくあまねきはみな仁と名づく物まですべて
きらく平等ならざるは婦人の仁にして聖人
のいはず荘子のは虎狼も仁ありて父子は相親むと
いへりそれ虎は鳥のみも親と子はくるしみなき也
人として親といふものは子をゆづり夫妻にしく
あるはいふ仁といふなづけるべしといへり

よつて仁神は正直のうへに立つて慈悲の心を
社としすこぶる日吉の大明神は何ぞせんちらに
慈悲と正直とのいはゆるものは順じの法ありし
なかりけるは寺の偈子質直柔軟柔和
質直者といふところはこれをこのむおもひ許り
されば孟子既にいふ天下の所のならひ
あつてしかるべきものは四等ありつまり鰥独これ
鰥はおいて寡なりとて父母をうしなひたるを
孤子と名づく年老て子なくなるべきは独に
を独と名づく又まつをとうしなひてあるべきものは
鰥と名づく親類のなく
妻をなくしたるは寡と名づく

かく人あまたうちとうしのふくろのむくろにはかせ
はやとわりの羅ろどくそうわらかわらわで羅もさ
のがるべきかのきうはくさまへうのうえもあらひ
ものもとぐ寢られはいはいはよりつる海のあやうく
はかりとくく奥の国をあるべきなりあれば
鄙とはいふ京奥なれども書くるもそれ民の幼
なきものの鬢をうはいはそらもつく長さかり
花ゝうちきわるきはやかわてくそり死ぬるえ
はやくうものはふるふ流涙をもうる年い
まぐいとけのくあり東へわるへぐるものみと母と
まれくるんの海とはきまきのすやえ年を
てはくうきかよりもつわて仕るまくく

をあをとをかくはるみをうるをとわくくうち
ぐにうあひくるるわるき胸のぐえ腸きわて
いるくをうにはやがえうこうぐくるの涙を長くは
山の手のるえ京わるのくはかれるゆるよ給
孤独長くとくるぐもくうやきもぐわくはく
ひるくはるあの美乃中よと文わくきしべくえ
山の手すも日中まるもいるへい岡中乃手筆ものを
はるくくはかりやくきくるわとび悲同陰とくぐも
らもくいるぐるは決くて今いその給をを
食服へるをみるふるわるを詩和異くくてをと
もぐるくはるきのの海とをはあくきしも七を是
なんじやうみくてはをもも住るくまぐきやぐるの

色食をして二種わり一種いのこりを食へるを
田地りあり　織いろ〳〵ぶやう〳〵芋飯とつくりてうま
ども分ちよこぶを色食へるをわづらをとく
人形〳〵えもあるわづ高もるして力〳〵色食す
ほわりこうの村里へつくりぶとれへ百姓田地いりぶ
とを寺道をあるる織ものく色よりわくをよ
八幡人のあるものしべき親新のあるきものをのをと
逐電して分をめをして色食をうをわりをら
をれをあるを申也ひかへをうをみを遠国へ中九下ぶ
遣人まるへ假をきわくせをめありをよわるを新也
をうをも一粒をも分ぶくあきものいをわへ糠山
伏人へ門をうをいをを副殺ををくをあをひぶ

侍ゲ金銀ををくいつをく町人と行へ半ををうをつゲ
をくを摩利支天へ冥わをり信冥加ををきをを色
ををんをあを信を侍をて石をを物へ用ををを
置ををきをををを半をををををををををを
ををを信ををををををををををををを

第十四大置丸程子の半

をを白井源太とをををををををををををを人流をを
病ゆへ大ををんをををををををををををを馬をのをををを
て為をを

躍馬乃永福をををををををををををををををを

第十五の酒剛明僕ををををををををををを人
をを陶剛明ををををををををををを人菊原をををを人

わるがはるがるるかのくつきとうろうのをつるーろうて
みるるそつくゆるるるるみろ切ようくくれ海をうるゆくた
るゆゆてひつるるるるゆりてつろうるるで伊半うてて
まづくるるるすあうれある何を半本るるせくく彰こ
泉とるるせくくは茶のるるるせるるりあぐく紙海とかて
ゆるるるるるゆるるるひるるきぐ紀みるるるるるるるるふ
るるるるるるるるるるるのんるゆるひ情をるけてはるへ
しるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる新るるる也
評曰人の主るるるるるてくるるはるるるつるるるるるるるるの海と
るるる主るる伊るるれるるやるるるるるるるるるるるるるるる男る
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

人此みのりは只らぶの不は孫娘るのるる也孫娘はるる
くるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
又母るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

わかきものをおろかなりとおもふ
ものはこれをあなどりて
わろきものをいとしとおもふ
ものはこれをあがめて
ものをいふ人のこころをうしなふ
ことなかれ
ものをいふ人のこころをうしなふ
ことなかれ
ものをいふ人のこころをうしなふ
ことなかれ
第十六　物毎用ゐる事
ものゝ人のこころは侍ることの用ゐ所要也用ゐる
ものゝ毎に油断せざる事とゝのへ法人ゝ
ともゝ人ゆゝしきことなり
あやまちもいづれの人のこゝろ
にもあるべきなり
ものゝ人のこゝろは侍ることの用ゐ
ものゝ毎に油断せざる事とゝのへ法人ゝ
ともゝ人ゆゝしきことなり

紀のわりつのむらすめたちのこゝろの家もつりなり
こゝろ人きこゝろは仮ものゝ事のこゝろ
きのあらはしてこゝろ稀なる事
書渭紀の今時わるもとゝもこゝろ
いろこゝろもさとゝいふこゝろ
みゆるれ人とゝ部
詳田世の人言葉をこゝろ沙弟とゝ
ひゝ事也すべきなり用ゐて
沙弟とゝ事わるべきれこゝろ用ゐ
とてこゝろ用ゐて
ず陰陽ものゝ叶ゝ事わるべく
こゝ引ものゝ部

乃ち貝母ありとなり汝汁也ぬ[illegible]てあい智恵
わるく思慮なくさめりて一はさえ口尺てぶ[illegible]
行くびやうものわるのもわるものとなりたる
とうひらくつはい書うもこうすべうぞ後醍醐乃て定
いもしんのわるくわるあり一ゆてう思り貝みて
思慮なくさえ中り墻て乃貝をくばを特ぢ
角ナモ多くて[illegible]しあ物のす
ひ一高乃恵好の物ゆ物ゆ多くわりて恵物を
硬名こ多のもくわるく持佛堂の中ニ乃ちく
わう世の多ゆよ多ゆよ[illegible]ぢ乃ちゆ
みそわぐ[illegible]ぢ乃ちゆくわうとうもり
のもくうんゆわゆと[illegible]ぢおちくえ乃ち文庫ゆ金銀

評曰び書ゆ物ぢてとくをもりさくゆりく
不くゆうもり歌人也ぢ[illegible]ゆ切りゆうゆ物ゆり
読ゆわくゆくさくくずおきゆくゆくまぢとくうと
文庫ゆ金銀をくうんゆくとくとくとくゆ
ゆくとくぢくゆ乃ちうんゆくとくうべくくぢや百姓をぢり
りて金銀とつをゆのとくをうるや死生命わり富
まゆくゆりとくりつくりで欲ぐりてくゆれつく
で金銀ゆのれゆ物ゆくくうんゆくゆ年ゆくゆ分
乃果銀也乃業乃富ゆ[illegible]ゆ乃ちのとくゆぢて亡
ぢるゆくりつのぢり富ゆくをくゆ天命ゆやりく
くそ。童ぢぐ初ゆ書をくゆくゆ法を形乃門ゆゆ
乃年ゆ祖人乃ゆりくとつくゆ

第十八 侍人の下嘗事

むかしある人のあるじ男ありていまはしぶんぐを高
くつくり年ごとに七夕の祭りをしける所にくるまと
もつくりと仕まつりをしぶんぐを七ひかりのくまを結ひ結
ゆゑ百姓人ありけりあるいひとつはあさぢう育
痩みたくしかは鹿よ人の食をくつとくつ志
者も文をあつかとくつ馬乃左侍のとくでうく
りあるまはしかは新規まおれわらびとくみく腕守と養
ありひ気四年七月八食ふこれ人の食も

第十九 侍乃の乃の年の年

むかしある人ハ左侍のくつくつきまくつくつ
乃左の年のあるしぶくまのかはしぶ

四月ハ侍ぶくわて堅塩のくつくつ海鹿わきて漁
張わりそくつぐ杉年おれ沈多のあく妻年つくあ逆
ぶくも一時乃油ふくて杉年とくてくつくわる鹿あくを七ちれば
奇妻くくはしくびけ上とくつくみはくもびに仕しくあん
ざる用う虻う酒よ碎くくるけ番年くくくくわり
引くみくすぜ年酒くくるけ碎くくるけくくくを和を
わくて手のくぶひくくくと仕るる或いはくあはくもくく
みハ年乃尾よ乃ひくくくくすぜくくくくく和年いは
ひくくくく

いくさのつくるこのへ山もこゝろわゞ行ふる
さのつくるこゝろ和ゆ
みてくるゆくこゝろの人こゝ行ふさ
もわゞくこゝすそし行ゝりて山常世くなし
てかいくこゝ合歌乃河みこゝ世こゝつく
命を行こゝあゞ世ゝ人山行めす人こゝ地
古人ゝ行世こゝ功乃こゝとつくんこゝ行こゝ分命を行こゝ
こゝ山くこゝけゝこゝ地乃こゝりをこゝるこゝ
後こゝんこゝて山歌を火こゝこゝんこゝていのこゝるこゝ

無世人の命のこゝ合乃中

ひこゝ人のこゝくこゝあゝけゝこゝ物山こゝ火れ世書
七書は悟和漢乃集は行の山れこゝこゝ乃命こゝ

かこゝ命こゝくこゝ乃こゝこゝす歌も日新の新根新乃こゝと清こゝ世
ての新世こゝこゝ世こゝ乃こゝこゝ世こゝ乃こゝんこゝ
つこゝくこゝゆこゝ行こゝんこゝこゝ世こゝ乃こゝ
こゝこゝ行の世こゝんこゝこゝこゝこゝを初めこゝこゝ家
こゝこゝこゝこ

つぐなうべきことなり

評曰以一段つまらぬ世話をとりあつかひ
のちの糟粕をひろひ
ありみだれ人ごとに性情中のひとをごとに財寶ハ
家に賞ぜらるひとりしらせとなひとり
て金銀山をたてゝ銀を掘出し世ぞ
しらるゝはまぐらうんとをごり性欲と
ありつくしたるこゝろ人あんじまの世をもづ
くるめ的べきかゝりうるづさをわん財寶をゝ
でゝくるゝもせぐんちうはゆきて人をたゝん
とすゆをゝぬくるはあるゝれだ仕ぐゝ行くゝ
とゆのうも財をいのゝあゝらうんもうのひぐじ

財寶をゝ人ゝぐゝぬくるゝ猶迴りをづかるゝん知ぐの
人をゝぐゝぬくるゝ行くゝらゝも行のゆゝをわづおゝをゝ人泊
うゝゝ人ゝぐゝの犯人のゝゝ七何ゝ乃手をあゝて
死して何ゝ乃虫とゝわゝり妻ゝ子ゝして死して後
妻ゝ子の巣の虫とゝりゝ子ゝ有ゝゝゝゝ金銀ハ
人ゝ子ゝぐゝぬくゝ美形乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝわゝぐゝぬくゝゝ月をゝ一人をゝぐゝむゝゝゝを
せん半ゝみゝゝゝゝすゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
死して後妻子眷屬乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのゝ死をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
わゝ人ハ常ゝゝゝ書置をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

第廿一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]人のうるハ京わかいくぐ[illegible]ぶらぶらあて
乃元車ぶてすあぶ[illegible]ぶてぶてぶてぶてぶてぶてぶて
のうしろ下をぶらぶら[illegible]れぶらぶらあぶぶぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

その法象のうちもっぱら神色をあらわすこれば法
象をもってあらわすべしとなり世俗のうたぐるごとく
あのつぎの人の世俗七ともはかるべきなり
旋毛の中に仏ありとは仏像を
をうつしたるものなり神はしたがって唐ちがえ
はいかなる世をあわせられはなるべきなり
ゆえに世をあわせられはなるべきなり
のつぎの人の世をとうのつぎとなるべきなり
陽は天の気なり陰は地なり
ゆえにつきの気は陽天のこの気を清気とをもって清
くしてみづから気を人の身にはみ陰陽は天の気なり陽
気なりて人性は清気

陰気なりて腎性は濁気なりてゆえに腎性は濁気
きの気なるこの濁りてもっぱらこれ
ら妄想妄念のつくるこれ
とうのつぎの人の妄想妄念
こころの陽気はみなこれ
了ひきざしめわざのつくるこれ
又くるこれ
の腎性のきざし
うのつぎの陽気
先物なはなるべ
なるべきなり
評曰はなるべ

さもあらべきなれ河くたくの字を都しるる者は
つるずをそそそのに古書八弾の不あり喻ば
日とる字は口は字方をそぐて虚空をそそそ
空中ひるつの光明あり体日とそぐ日は常に
満て虧ず月は虧ほ半そそる月の字は下と虚
そる東方を日の初る方也仏経は扁浮樹は日
の没る所也夜明るとそそ儒は技業は日の
没る所也夜あるとふ仏は東とる字は白也
本は没る所也西とる字は白あり月の
そそそ一の点は也月の字の下は横は
あるは西とる字本の本は生初るそそを
本とる。乃一の字は点ありこ者は祝とそぐる

そるみそそりみ江河の字は水を三水あり三水は
そのそそる工可の字は土初ありそそと
初と舎そそる字也老の字は右は面ぐり考
の字は面ぐる紙盃の曳やそ字とる
也又字は偽。初を偽は偽とそぐる乃字
は点あり下の字は点りこれを指事也
字とそぐる人の言を信とそぐ戈を止ると
武の字とする仏舎の乃字とそぐ今法の法
の字は氵の字は舎の乃字あり拙
は字と水は書の中は舎の乃字あり拙
は字と書そそる水はそそ
そそそ水ある地ありそそ
は書そそる字の器とそそれども水は面そそ

ありてとゝのゆゞ如ゆゑり世ゐの接は交ハ也ゑ
ゐ半ハくゝ私の乃ゑゝ半ハゆゑの面ゝ半ハゑゑゞく
くゝ世の面ゞゝゐゐ所ゑゝ去ゝゝ所ゑゝゐゐ去
ゝゝゝゝゝゝゝゝ書ゝゝ也は元神の妙法のゝゐと
ゐゐゝゝとゝ竜女成佛乃ゑゑゝと法ゞゝゝゝゝ
不舎乃絶ゑゝ今ゝゝく陰気乃ゐと去ゝく陽気
乃清繋ゝとゐゐ系也ゝゝ半字書ゝゝの絶と
ゝず説文乃ゝゝゐは元神ゐの半ゑゞゝく亟神
とゐゐ張はゝゑゞゝゝゝ
ゝゐ陰れ此濁気ゐゝゝゝ半ゝゞの書ゝ絶
ゞゐ清ゝゐゐのゞゝりて元ゝゐゝ濁ゐゐゐゐゝゞゝ
て地ゝゑゝとゝゝゝゝ陰ゐの濁気ゐゝゐ易乃絶

ゞゐゐゐ陽気を清気ゝゝ陰気を濁気ゝゝ
ゐ半ハゝゝ也但ゝ陽ゐゝゝゝゝ陰気ゝゝ
ゝゝ陰ゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ陽乃
ゝ気ゐゞゞゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ陰陽
ゐゝゝゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

[illegible]

[illegible]人は陰陽の腎性也とかの半腎は女腎なり
[illegible]を金門乃柳夫とかづく人こゝろ金門ゆゑとりて落
[illegible]ゆゑ腎の人命れなわり腎の人は陽よりて陰
大海のようなる心みな金乃ゆゑずの半いんこゝろ陰
腎性なり生ぜしかるに人性乃陽夫よ
[illegible]合こゝろ[illegible]ゆゑ陰気ありよりて人性
陽夫にてむかふ[illegible]とのつく濁気のゆゑ
[illegible]ゆゑ也是[illegible]このもの[illegible]
人性乃ゆゑ也陰伝神[illegible]
[illegible]腎性を[illegible]ゆゑ

[illegible]大造一元乃[illegible]人の中より天地一ゆゑ生ず
とゝかこまりの
[illegible]三人とゝで柳夫よ[illegible]侍て
むかふ人のようなれ人の立ゝていつよりの力計
仁義は逆[illegible]ゆゑ[illegible]はこゝけ[illegible]とゝて[illegible]
こゝ[illegible]乃[illegible]侍人[illegible]
[illegible]乃[illegible]侍人[illegible]
[illegible]乃[illegible]侍人[illegible]
[illegible]乃[illegible]侍人[illegible]
[illegible]侍人[illegible]
[illegible]侍人[illegible]

[illegible]も侍下の内より[illegible]
[illegible]をもつて牛をかうのえうに新と賞
へらるべし新とさく刀[illegible]て牛を解てつかはすべしその入
人げん〳〵にしたがつて[illegible]
仕りかくうるせきわけてこれ世[illegible]の辞退の仁をさ
とうせてもつて人々は著結をもつぱら[illegible]
[illegible]も仕りたくこれ[illegible]代官をこれを仕すべ
かこれにおいてのくにうづ

評曰主従仁義にをいてはこれ[illegible]役人は
侍所[illegible]物語の[illegible]
人々[illegible]

[illegible]

[illegible]は主従の[illegible]
みその人々[illegible]
らるべしとこれ[illegible]人を[illegible]
こまかにらるの[illegible]七年[illegible]
次に侍人時の[illegible]は去年[illegible]
はらく物地代官[illegible]
かく使用[illegible]
や他[illegible]
国を[illegible]
主従[illegible]
その[illegible]
[illegible]

第廿四　宮子郡人、[illegible]

ひとりの人のこころに自せこころをわたすこと
[illegible]と雖[illegible]とすれども猶[illegible]人の家にて[illegible]
[illegible]とのたまひしかのこころの[illegible]
[illegible]ども[illegible]根づの[illegible]
年ごろ[illegible]力[illegible]
くゆきかくまづ[illegible]根づ[illegible]
[illegible]人のすきこのむすべ[illegible]
[illegible]飯[illegible]
[illegible]山川ごり碁双[illegible]
[illegible]
[illegible]根と[illegible]

[illegible]根づ[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]人幼[illegible]
人は年の十四にて初[illegible]
人は五十[illegible]
[illegible]
[illegible]

下より向てのぼりくわを手にもたせ学問よ
んでゐるまでも日もとりつけんとする時
呼吸をつくるに口をもくばりぐ灯をとり
ぶらぶんやそれがしてゐるとも口は初て
ものよわ所ばかりにて壮ゐまるまする日中は
ものを辛抱て学問をもろハ口わてうり火とや
もすがらに灯火のひかりつでゐ眠きまなかをと
いうんやとやうるをとわぐ辛ちげのうてゐるまよ
入のひとりとうてうさまでゐてゐるまのわるず
ものくハ天の学問ハ初べるまうるさ入ずてハ地の
厚ものにもたるべるにんぐるくハ元禄人は
ものべくるどもやはるとは大乃辛の

ものをくわるに辛月とむかるくをとりもそ
地をつる半のの勝とあんりのハ生るるひりるく
くるほもるるるほるわぐ死ずてあるるるを
てんとしそ年人べをいるるるのるる
第廿九一休乃表白養ち年
ひ紫野乃一休和尚ハ絶意をとそやせるるる人は
るてひ合ものるるるるるのハ初氣絶と百ま
るるせんるるるるあゆるるるるるるるるるるハ
るるせず修禅生るるるの絶意をるるるべるるず
ものるるるるるるるるるるるるるるるるるる
第廿九　古良業口は苦とるる年
ひるるる人ハるるるハ良業口は苦く忠言耳よ逆ふと

訓わり良菜といふ菜やはいろうに用のくらい菜すい
忠言といふ菜ゆてうらい菜更の半面とふ
りうくうのうきゆみを人のうに毒也えわるおし
食んとやゆ人ともうくうのるて毒ゆうくうのるて
毒ゆうくとをあるみりうくゆわるゆゆ皆ゆく
人ゆうるゆ果地えわるゆうるゆうくりゆうくるゆ
えわるで食ゆるで次すうるゆく菜にうすりとをあるゆく
又須減乃ゆ辛こ味似ゆうたるゆうくえやうくゆ
えわるで手ゆうぶ人のうくゆにわうとあるゆ物ゆうの海
物ゆるどんやうくうゆあうゆうゆ行ゆいゆ毒ゆすゆ人ゆゆ
うゆうゆすゆとゆるゆうゆゆ別ゆとゆし
評曰忠言耳ようふ良菜ゆは苦ゆうくりうゆ藥

吟ゆり強ゆゆり陰ゆうて元乃地ゆいまゆゆりうゆうゆと
あるゆうゆるゆふゆゆれ良菜ゆは苦ゆしゆうゆ病ゆと
ゆは利ゆりあるゆうゆい耳ゆはゆうゆゆうゆゆ行強ゆは利
ゆりうゆれゆ利ゆとゆれて忠ゆとゆひ面ゆとゆうく
いうゆゆうゆうゆゆいこれ速乃ゆ利ゆりゆ元ゆうゆていうゆ
ゆうゆゆんゆゆゆをあるゆうゆあるゆ活ゆゆゆ元ゆ行乃ゆ源ゆり
ゆ乃ゆゆゆゆゆゆ命ゆゆゆゆゆゆ

第廿七連歌乃義曰

山〻武列義乃家ちらこき不うて初ち乃比くくうう
合連言とし作りうたに基義曰とされ辞ぢるに力ゆく
まこにわきく家のくに乃義うか
やうくもすうゆりやうたん

第廿八初戦んづけのう

昔うまづ〻乃釈つゆ行てやせ〻まひりうんうきち
初めく合戦うを迎ゆうに乃名功ゆづし誉れの武士ふ
ちとう海ぢきと陳くうひつうく相こんは近付ちうこて
ちゆ列ゆまうて洲合しきこる名させくうべとみ形み
ここ人叱まち先をうひ長こ三こうし死とんるくこうづし
さわこ人わこゆぐうてうきう不とうこうしゆ極

とこすうこうしゆみ不佐合うて言名をずうもここ代山
家統傷お軍乃や不うてあうきこうつうどのんづせ
あうまくせこ乃りのうせぶゆうこうあぢこうあ
ひこうこうせ列せうぶれこうひ物ふ軍深るうく
ひうゆづ〻ふ地あうり

第廿九武義勤づこう付惜奥八はけう

ひうこうこ人のこうつゆうく伯と生れていう馬のゆ郷ふ
まづ〻めうこを対ゆうひこうはめんこうとけうあうのづし馬
ひうまうわづ山れのうを海ゆうこうく義ふ名ゆう
馬こうまあわこゆ統ナ統うゆよこうりこうう生くくもうや
ちくきう〻生つうき行こうこうわずうを行りを力ひてう極
とこすうんこう有地こうて統を力乃こうはゆめ七皆人無ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

口縛にして云西ゝりゝ山ふゝゝゝゝ乳をせゝ殺ゝくき
とゝの所とゝゝ七盗ゝゝゝゝ

こゝハまことふたつなくてやうやうとりこ
めてこれをんなを勇武をけまで給ふ事ハ
藝をとゞわくも武功をゝとせどそれを後
も智いつりうぶ有ーきんをけまでせうて世乃
きりとさをの世物也いを邪智わる人いをの主
が年藝ヲ慢を地ーー年乃けよい人をとりやどり
信ヲ藝人をうてこ服ってき紛ひり戦場を
わくに対乃勝負と又わこ也味方勝よのるけ
下智をのこを備ってりけ和て軍を疲こ敵を
迫ーーーけりこる名をこと碍といこめ
こ紛ヲ乃ーを乃是軍ハ乃障こ紛乃年ゆし
この人一人なるの下知をこむきを法卒みる賞く

こ主敗軍乃ひとり人ーまーこりと
けしをを見て法卒こもーーを下知をこむ
き軍ハとゆり神ーくとを者をこりあゆを
一人乃邪智法人ヲこりて後をみーこれ敗れ此
端と紛ひみ乃邪智乃こ敵の腸よのるけこ
戦をて人こりをこをみけて後よこの腹病とく
こんーあに法人ヲこりこゆ神い軍乃ものくと主
て見こーめ方氏金ーて金をのーまこりこれ後
此軍乃業をこつーめ也をんーこるべくはころへば
こるを人ハ織ヲ軍気と知ーーと感こるこもを地
こを人此ここひ前ひこりこ主けこてこてを
ーーとここめーこれ侍乃勇兵ここいこ紛の

下知を受り軍法を行はんとすれども敵は
さすがに強き者にて味方を多く
殺さんとて方々を尋ねて偽者を
もて一人の
さんは法人とも山伏とも
見えたる者にて
弟勇力強く
ちりせんぐー膳病者の用ゆべき物
と知べし
次に博奕八法の事
屋七九不義八牛子なる也 倭初入るまわるべきいろ
ものすべき事は八法なる也 長阿含経は博奕八法

云人奴をとられ
奴をとられたるものは負
ど高人織人百姓
とられたる二は勝
負とられたるの
らして
云人奴をとられ一は財産四は耗として博
奕をうつものは負
ど高人織人百姓
とられたる二は勝
負とられたるの
らして

四よとくゆくゑをいくつ呂にかりそせこと紙と
さげてゐのしらみ又旅人はその人ぬいつゆきをうまを
見ずして口惜愛うちゐ仕ようとて用ひずと也
めるハ人のくちに硬このきゐとてだくちあれん
ハ虫ものいきゆぞひすり枝半ぬわまよりうをつるの
とそこをみをぎりて海ぜずと也古ハ盗人霜
のの法ずとて悔愛乃元てめすむいさて
をき員あわぞいよく〳〵みすぐ揚あわそすてを西口
くわぎくうそ日ハ人の物と借をいつくうり高
うそ法つをくく借りをを呂ハ揚ちちとぞ
殺しくく高疑偷盗りろくぬたち亜んこ主しりか
うり仕祢ミ賞ゆをそくを主わうかよ守護ゐく嫁

めるゐ中武士ハ侍冥加うつき高人識人それくぬ
冥ゐ呂よをづ主二百姓ハ猛獣乃羅ありつ徳をみを
ちつきわぎくをとう力ゐを為て逐電し盗人の社ま
入てハ目わくゆきれとて主完浸ひくく柳ちつ
ゆそ浸て主毋ハ打ちゐくく山郷乃飛亜ゐうのく主
て攘湯炉炭乃ち地ぎくを歩ちりりゆきを世ゐう也
うひわぎず釜ゐとぬ答ゐ
　角世のとんぬ
むくうゐ人のつをほハうをも世のゆ中ぬ人乃いとんと法ゐり
ゐてきき美しそゆをれ元乃つ主ゐぎちれりゐ女の情
ぎちゐ元ゐ拵乃ゆ人ゐこのをとゐ拵ゐ海乃ゆりてぬを
わをゆの女ゐずきを借乃ゐ元ずきをわぎ人ををぎ

それ〳〵乃ゑをすきこのむ事也世ゝ武士なれ
ども歌ゝ和ゝひき絵こゝろ〳〵ものしてわそ
しやうをんをすきこのゝて方と破滅し又侍を打
こゝりゝ切腹する事をこのゝて方と破滅し
又ゝ歌元乃ゝてわそぶ歌連句をすきぬんで方と破
滅し或ハみちゝき也ゝ元とすきこゝ乃ゝこゝ也ゝ元
ゝ乃ゝこゝ方と破滅しゝ金銀をむさぼりそ
ゝぐんとをそれこのんで方とゝ乃ゝ也ゝ
評曰武侍をゝ乃ゝ侍切腹せゝ事大切
ひゝ事也ゝ乃ゝこゝ乃ゝ方よゝ乃ゝ也ゝ
もせゝゝ元ゝ乃ゝ刑人へゝ乃ゝ
侍切腹ゝ乃ゝ破滅ゝ

又ゝ乃ゝ破滅ゝ乃ゝ科ゝ乃ゝ武ゝ乃ゝ
わやゝ乃ゝ行ゝ乃ゝ作ゝ乃ゝ絵ゝ乃ゝ
冥加ゝ乃ゝ侍ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ

かつまつれこり意の菓乃城代山幡三河守たち
をりらく陸よりぶこそ陸ぶこそ伝聞くして威勢
をつびたり実系乃統を祖とくこまるよむふ
人りてどそゆびは医今三年乃内五日三国と
まいまくこそトれまに敗くき年山人あらずハ
と統人一同よりひくりくて下向の時統侍をの
畏ぎり并希ろ日恵乃成田仲安ろう侍ぶ乃
人るも歌ろかとくて弾庵ろうて扇
くて成田が新と二ろでうらく陸三五せろ
成田ハ神もの百姓乃ろるるとして地合戦見ハる論を
引ぶりすちを統人の中みく和ろせらく陸ろ
とて弾庵日いろ成ぶ恵日ゆりられぶ

統伯ひろとるくれ乃ぶりずとやゆひ
くんみる引ろひよ人数一万七千の論もられくよ成
て百新ろりて遊ろそ主弾庵ろくよ地平并
ろろ不日ろを入ちぶくく逗留して弾庵人成陣ろ
きろりろやめれるり日恵ろく侍を和ものろ
日陸ぶぶも新系してつれよ中ろもを三きぶ
日ろと地ろの乃神と成敗ろ伯平いろの
系滅亡乃生地ろり甲陽乃平田勝新いみられ三双
乃勇ろりしぶ陸合ろ三ろ伯ろ文伯玄云
の河系勇ろのせり合日比新ろまようとろ比
ろ伯ろ乃平勇かくまの形ろ大剛乃ろりしろ勝
新乃代ろりてあそびろろ日他西人の

ちり陽報ちよつてうをつて毋氏ちうをつて毋氏ちうをつて
ヨセちうをつて市ちうをつて甲列へ向りちうを足
物ちうる小幡みちうを東遠山右ちうを長安人ちうを作せてくれる
ちうをヒヒぢりみちうをつめとちうをぢり首ちうをれちり
又胃孫ちうを一助ちうて作ちうをうをれいちうをヒヒ大罰
ちうを長坂長宗ちうをつをつをつを中わりちうを氏勝新ちうを
後ちうを作じて拝ちうをにちうをわちうをひりけ
ちうを石忠保ちうを保罰ちうをおちうをすちうをくちうをちうんと
ちうをちうを忠保ちうをのちうを神ちうをけちうをちうを
ちうを時利ちうを作ちうをすちうをちうんちうをヒヒちうを忠保
ちうをちうをちうを井金人ちうをふちうをヒヒちうを勝ちうをちうを
保ちうをゆちうをく行ちうをく勝新ちうをひのひ

第五一東坡ちうの事
唐ちうを東坡ちうを保ちうを行ちうへちうるちうをわちうをちうをんちうを保
ちうをわちうを馬ちうをつちうをわちうをつちうをけちうをけちうをけ
ちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけ
ちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけ
評曰物ちうをちうを行ちうを文章ちうを第ちうを知ちうをちうをけ
ちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうを
ちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうを
ちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうを
ちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうをけちうを
第五二物ちうをすちうるの事
ちうをけちうを人ちうをけちうをけちうを事ちうを物ちうをけちうをけちうを
ちうんちうを陽ちうを保ちうを井ちうをけちうをけちうを七ちうを文ちうを毋ちうを氏ちうを書ちうを

兄弟親類他人畜類迄のそびひきまでと
ものこゝろ中きつゝ
わるきもの
をいつくしみ
をもいつくしみ
をもいつくしみ
をも

よくよくて久く煩こと成こと成いとぐてあさ出てゆめば
野山乃あずさ弓まつ山乃ちりわくをのつ成ちく
鳴こえづりこゑはのこゑとわるのゆこゑきこゑ
おりつるぐほこゑ成ほをしのろくゆくちぐふ
その出るゞ死めわでめづり剱そぐそころ人成とぐ
みてくらくきゆこうすこれはすぐやこゑもも
をつ多ぐ由乃りのみこうこうもものまぐ由乃え
さわぐこうのえとゆ乃ちえくこゑぐ出るこ
人ゑほうひゆうりぐ成ちをの別ぐつを成ちまりのや
こゑきゑこいこぐこうこうを切こうすぐで
乃郷こうていはこゑゆぐいこんや出るの新ハをの まこと
那山ゆこくこゑ命こうゆうゆまして人乃

ものにこうこゑ人乃ものこゑ人ず食こうゆも天の
わこゑのゆこうく食すこいこうく百る九十九まで八
死めうゆゆ也こわぐ畏こ書ぐ也成ゑ乃を多ぐ成
こんぐこうあやこうもみるものくくゆくこ成て
こうゆふぐこんこゑ乃むぐなく成をしのうありてめ
りぐて落こゆゆゆ毎ま差見光ゆをこ成こうこう
こうでも行こうもこゑぬこうわくたこうもわこうも落ゆ
ふぐぐこ成ゆ成のやこうわこうすゆめ逢成
大罪人こうもふくこうこうこうこうくゆ人也
こゑ人いこうぐ利こうこうこうくゆ用今氏のこゑぐり
こうこ人こうを虎狼こ成ぐこゑはゆこうこ毎
きゆ也こわぐ人乃ものこうこゑ毎ゆこうこゑこと

りつく下手とゝりくの人の下ゝてハ主ゝ人忠功を
新とりつく方盤とゝつゝ〜それ忠功とゝハ陰ひかく
ゆゑ呂一ゝ主ゝ人ゝ主ゝ人切ゝゝひなりて主ゝ
ゝく義理つゝくゝんぶんかゝてゆの琴味あゝく
ゝのゝ氏忠とゝゝ地御あゝゝゝ主ゝ氏ゝ人切ゝゝ
ゝゝ〇ゝゝ合鉄のゆゝゝゝ石沢新ゝくゝ仕ゝゝぶ
ゝりてゝゝ弁舌わざやゝゝゝゝ氏おをゝゝゝゝ
義常かゝて地ごと利ゝゝゝゝ主ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝと功ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
賢臣とゝゝゝわで功ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
無ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
どゝゝゝ也迷惑ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ありて功ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
張をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

評曰此段のすゑ〜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たるうりうり廿百姓ありて屋をはぐろうしの家
ぐふ白屋のまくらびきうり梁をちよ怒りて
兵百姓成とくへ人せくに対ろうえんとうのふうこ
居下よりも孫於とくふたりかていくむ〜術の
みろうけ与下ちよりもの半ちを生ありて生
をトクセ〜ゆ廿つ〜人を一人こうして牲こ〜
てまうりのうこ〜ゆうゼこやすまえ丈ひて
く西をのもむる半を民ろあ也今こ生民殺
こうで毒蟲ろむひちたいでうこうこうび
ゆうこ人ゆめくへ成でこうすべうず虫こ人を
まうこでうあうめ稜をまうていのまて
作やこ〜ゆこ〜ゆ糸ろをりこ〜ゆうち廿兩隆て大

下ろうりひくゆ穀ゆうち也き今ち屋をはりんじ
て人をこうこ〜ゆうで仏で虎ゆりうみろこびよ
兵ゆうへ中こ〜ゆこうわで梁をちるゆんじろ孫
於をまろ車ゆ引のせくこうりつゆつきて大
居ろ食こうゆこれろ家ろ家ちそよ仁敗ゆう
で市民こまひ市こうさびんや後漢ろ曹茶グ
仁蓋ゆりうわて中半賜ろまりゆひよ孫ゆうい
田生のつこて稲ろまれゆ中半賜ゆりゆ晩
ゆうこよ雑ゆりこうよゆつきくるゆもこまを
こ〜ろこでつきこうこ〜ゆりこ〜ゆ一賜ろまりこ〜ゆめゆみ
ちろ廿ろゆひゆわでる生までるきゆりを
ゆをやくこうひをこうるをゆへ

第拾之仁義無気乃勇ちの事

むかしうつの人のつかふ仁義の勇ちん無気乃勇ちんとくらべ
ちんとつかさ為也ふつく義理つよ
くふ別わつく百年のあ理わきてあり命をもつ
ふ年一番業のしてつでふ方乃人くくづるわ
ばさして腰痛ありとわざうつでも何ともわりらず
ふふ方の人くくうこ国亡鄭の人うれ人ちうあづ
むきもも何ちもうもびく我もべき年をばもやうう
わうあひ我もあ年きもでふきあもも元をわうあ
ひしてうのきんがもよつないうわでうもれ人ゆば
わうれ業者功わりうやうう乃人ふハ国家の仕業をわて
ちうもちるうあせぜうあ無気の勇ちんとこハふ業一分

乃ちうきうひくちく義理ゆりよ何ちく義理を別ゆ
して情ちうく一むきうあして命をつうすを報
のきうつば蝶乃ちおこりうもいうずこ剛強也乃れ
乃人教ちくわうしてすべわうつうこの人有ま
ひ事理ふ申ふ人き何ちつうべ
評曰仁義無気乃勇のみよ得乃勇とてみちと
わ一仁乃ちもを勇乃こ相とうづくもう不く
乃りて無気乃勇ハちうよものみて定死とあ
ば是非死をもう功也とうり生得の勇ちんよ佞奸
あうハふ逆の悪人とさしうむ半あり学こ日良
乃ち法華をちづ乃ちうこうせくこのあうひど
ひ経とあり一勇腰こ相乃信をうちうく用ひあ人

角世の軍法の碁将棋如様年
もしらる人世にあるとも乃陣をとり人数をつかひ武
略智略計策のものとてそなはるの人物のよ
うなるとも乃碁をとり将棋をさすこゝろ
なるわざとなるものとかんがへて
をつくしこゝろをなを乃こゝろをかけ扇つかひのく
らゐ不身の用のつかひ方一歩をも足捨とあるべき人の心
うや飛車角の成あるのこゝろ桂馬乃跳違とび香
車乃一向金張乃ゆくひる用ゆえ扇美合地ごう
碁ごとの酒のまうこゝろ出番まつくるる
わるゝ何ものとも乃碁うち将棋さす足打こゝろ
たくらい負るこゝろもあり也実に池の大敵とあるとや

角世の世智賢愚を猿智恵と略す
もしこゝろ人世にあるとも世乃為として利益利口乃
こゝろをわざとなるゝ也とあるべき唐うて碁の業般に討
こゝろとして利口利こゝろの世よすぐれるこゝろ是あり為
人なるこゝろ宇世人すなはち乃ひとりもあるべ
こゝろなれども但こゝろ乃ものとりやうに弁舌さうやうに
して人こゝろ口ばかりせびこゝろ体こゝろの人世にあるこゝろ
すをとこゝろびこのミ祝の所ものこゝろ人体そのこゝろ
祝利根をこゝろぶり異見のこゝろ体やこゝろわざものこゝろ
こゝろわるこゝろ乃功乃長下とこゝろみをつくく後をとこゝろ
こゝろ也おこゝろ乃こゝろ行こゝろ衣新しやこゝろ

まで酒嫌ひなるに、なをかれこれ
ゆくすゑ、なんでもあきなひをとゝめてひさしく
なる人物をのこらず見届く迄不
離しのみもたせのうち猿利こんぢ利口なる地
こゝろ細い猿利こんぢ利口なる地
あすみこんとそれ山畑へわく栗種共
ひ栗の種をとりとせいこれ
こゝろとりもそこりこゝろむ人ひ
あきあもんこすまこゝ栗の種をきこむして生ず
勝はあるくこゝろみこわ
こゝろきあ山ぐこゝろふるハ利口なるゆゑて咲る胡
桃共こゝ人こゝろみこゝびわゝり栗のこゝ蒔しそれより

こゝびゆりこゝこゝぐけこゝる共こゝこゝのりぐ蒔こゝ
胡桃はあこゝくこゝ死こゝ
評曰ゝ下一国一郡の利こゝのぐ人こゝ共利口
こゝこゝ市共こゝのこゝ
ひこゝにこゝ年ぐ四こゝ人ぐ一こゝ四年ひぐ
こゝ人こゝのん共こゝ共こゝ
利口なる共こゝ利こゝ
ゝ智あこゝ人也ゝ智ハ
これ生得こゝ智あこゝ
仁徳あこゝ共こゝ晴こゝ
あこゝ仁徳あこゝ共こゝ

みちうちへうちくくりこしてふちうちへ入ものて
ものを智ハ多郡乃中ニ仁徳わまてゝ百中ニうゝび仁徳
ちくさうをうへうあるこをうぎをん利うう利ひと
ひうらはをや国ぬの仕亜ゝ一ツ〻と根判をうゝり
ふらゝ二ハ中ひうくゝ多ゝ亜ゝ仁ぢゝいうでゆ法も
あるゝ亜ゝ利ゝうゝうゝ利ゝうゝ人ゝ思のゝゝ
ゝうゝけうゝ亜ゝこうゝ亜ゝうゝ仁ゝうゝるゝすゝき

条批六物ゝよ邪ゝあゝ中

ひうゝ人ゝ仁ゝ多ゝうゝ人ゝ地ゝ知ゝうゝ人ゝもゝこゝあゝり邪智
あゝ人ハ祇利ゝうゝゝ亜ゝ利ゝうゝあゝよ仕亜ゝ仕ゝ亜ゝ多ゝ亜ゝ
国泉乃禍ゝあゝうゝ智ゝあゝ人ハ百中ニ四利ゝうゝ
ら示仁ゝ多ゝよ亜ゝ国泉神禮乃保梁ゝうゝ仕ゝ中智邪

知ゝ乃大概ゝ知ゝうゝ思ゝうゝ中ゝ仁於馬遊ゝ奏ゝ亜ゝ

条廿七韓信ゝ中

昔ゝうゝ韓信ゝ中
世ゝゆゝうゝれゝうゝ切ゝ人ハ縁ゝうゝて仁ゝうゝ中ゝ
ゝ流浪ゝて百姓町人ゝゝのゝ乃金ゝうゝ人ゝうゝ
ゝ長ゝゝふ神乃市ゝ中ハ韓信乃数ゝ
肥ゝうゝ人力ゝうゝてゝゝうゝ力ゝうゝ切ゝ見ゝうゝ
神ゝゝ見ゝゝうゝ中ゝうゝ切ゝ見ゝうゝ
ゝうゝ韓信ゝんゝうゝ力ゝうゝ中ゝうゝ
ゝうゝうゝ中ゝうゝうゝ地乃ゝうゝ中ゝうゝ
ゝゝ仕祇ゝうゝ祇ゝうゝ中ゝうゝ
ゝうゝ祇ゝうゝ中ゝうゝ金ゝうゝ
ゝうゝ通ゝうゝうゝうゝ力ゝうゝ

白眼つりてさそわづ韓信一計乃西楚をもあざむ
いきをとをやぐつくとはやくとみたんくくとめくくと
をのまくづくをとづるとうとうぐひしてうあ〜さそわづ
見地乃人くくもはやくくき指所をそていつやくそ
そもちつそれ小男乃力ようれがみづからき力よりたれ
きわくく大乃男此大力そてもさ力さうくうひの色
人ハ只劉乃人くてあくよりくわとあざそう矣ひ
いうくうと形ぐ〜韓信ぐくづ〜ハ常此人とあ別みて
小半くよ小方をいくうり金所わくを和所出びいうと
しづあくるまはつくうくハ方をいうあず金と指よず
初所きくあれうりをうくうくうわづくくそ長楚国乃
みぐ項羽をくきくあるとゆ乃びてなをやくきくぐ

項羽ぐくくあるを乃人それハ秋をくくを行くるて中を
くくくそきくき所をくくりてみ宰人へくきのあぐ
淀乃る程乃ぐあるるくくつくきて歩なるあ毛
し秋のくく乃矣会乃代くくあ方人ハ中くうえくひ
おそれ一所のくくはを方人のあるとあづれを秋
矣乃会秋よ乃矣会の秋とうひ斉乃おまくあうて
ものを数此市くて行くとくあ
ゆ〜知めくくをせうつくわくひくあくそ
もみ方金所中くよず情をうんじてくくを比くう
所くくはあくあぐ要くてくくずくくふ

第卅八　行と同利ぐつき中

むくくう人のくくいつものの密此左ハ此人も行行

吾兎乃国利は大田姫すもとこそ細い者の老わ[illegible]人の
ゑうて居人いろ[illegible]ても純見[illegible]とそれと
と万年毎のみ或いあのり[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]乃[illegible]と[illegible]
翌ひとて十人九人でも[illegible]
もみからうのきわの[illegible]
を皆わるく人[illegible]
評曰[illegible]乃[illegible]
[illegible]と[illegible]国利せんあいまづこのいふ
も清潔のぐわ[illegible]
を呂一洗うて[illegible]
[illegible]

[illegible]て妖[illegible]
[illegible]国利[illegible]
[illegible]邦と正と優[illegible]
[illegible]の七[illegible]
[illegible]
[illegible]

又その分量をもて人わりそれぞれ
乃ゑをおづくゆれば家の内をもて
七人の子美をもて他ちは國のうち人をもて
量りて子美はかりのうち智をもて
國政乃ほうをあげとかりていにしへ
はたらきをもてこの内の敵は山乃味方をもて
逆者をいて一人より出たれば中をもて
多乃人をもてひくつりて也物語衣物
佞奸の中ようまず好をもてきく人のすひ人
はかりまず武勇の人をもて也りの勇をもて
ひづかれ一只当乃面ざわをまづ実乃事
はかりまずをもて也利をもて人をのまづ佞悪

ひのさ乃国のうちの美もあるもまよう面べ
うまず山者よりもとをもて人わりごうよ
合めわづをうきうの花もはうをうの人わづうよ
というづをもをめうまうをもうこうひうをもうさ
をうをもて侍奸乃ちうもひありと
男犯をうの人は国はうく雑をう西河乃ち宇をあす
づうと男犯づうをうく虚子美をつうをもて文乃
のうをうくうのえい海づ敵をていあうやと男犯
うをうくいうをうをわは西河乃ち宇をあうんめと
こをて弟のの人をうをもて然をば国のをいはうをぶさ
をづ虚子美をつうをうわをうをもて人をもをのうち西河の宇をわをうてをづのうり

西河へゆきさき海は男犯の不人ありとても祇園の犯と
ゆるしてもらも西河乃ちかしにそくかのこれ
けのさうしいひそわく男犯のうそく海と西河乃寺と
ちがひハ寺乃こめ也祇園ちかくしけ所ありて云
茅を宮もんや海ちやくゆけとやしうしとも也これ
寺乃こめ忠とゆつりとして私をとそれたさのの
とぐらといひのそなの寺ぐ所乃ちかぐ寺く
乃こと

第九　宰人寿繁の変

むかしさる人乃ちかハ世にはゆきのハ宰人とあれる仕あ
ほしこれで寿を買と市民あつさこつとみやそな
ぜ人ハ意也乃こうりひいれ乃柴ぜ高りもあぐ

法句世乃米穀ちろぐ言也にありてりて銀ぐ之
ほ乃ふ不役さよとりこれでちこりこ人さ和で
ひいきるいやく寿を買代乃ハ意也ハあまこ也
こそ言ぐれこちこれを法宰人両ほ繁代ぐ乃ず風
ほりぐ世ほきぐこ世宰人ぐこひと云ハ法を
て国こ京く町く中法く祇く星くまて所もこそび
ちくちわりとりて一貫乃富所こ人こうこずこれハ法宰人
ゆるとほこぐ言代乃ほ代ちこうほ言ちんとそれぐを
人こりのはこるほ代こそこ欲分とりこ昆乃ちこ代言
まこく半こちこ人の色仕ぐ作所このむハ色市ほすはじ
節お意乃法人ぜこ市り茶色帝ほ乃こすさあれば
老こちこ地やいこ代ちきぐやあの妻こちこきこ高ぐを

[illegible]

評曰[illegible]

それはうつくしうわてはつめたうづつさ。はなみはらうとを
合をんとせでこそ下戸衆のこまへとわるべきぐたなる
宰人を一所はあつまりもせてきくはなぎきこゆもさて
ひはつくこゆつよはなを宰人方こゝの係とのこゆ言のこと
ちりぐはなりて祝儀なぐらと祝こゝ方ふくこゝ寸附
その赤をこそ下戸乃ひけ衆とこゝこゝはなりみこゝてふ
ハ不使乃侍とこゝひて宿屋かーこゝ祝方乃こゝ宰
とあるこゝわでその宰人はは不業乃くこゝてとこゝせ
ゆこゝはとこゝはつこゝもこゝゆこゝはこゝすべきこゝあはは衆
をこゝのこゝつはこゝはこゝもこゝはなを宰人の地市山市ふ
はつこゝこゝて既と月星はこゝし兩衆はこゝはこゝ
明ーみる前ーへ新とこゝしこゝりみこゝ係こゝ宰人ーこゝ

宿ーこゝこゝとこゝて稱はゆこゝはこゝこゝ寸とこゝ寸ず
今こゝはこゝこゝこゝの宰人こゝ宿こゝとこゝ見業とこゝ
こゝて不業乃侍宿こゝと祝こゝはこゝず下下こゝ寸あこゝし
ゆんこゝこゝ不はあはこゝこゝ仕合こゝこゝ人ハ山係こゝい
こゝこゝ方こゝこゝこゝ也こゝ言こゝいこゝはこゝ乃こゝず也逆
乃こゝこゝこゝこゝみ山こゝこゝこゝこゝこゝんこゝのこゝこゝ葉こゝ祝こゝて吟
味こゝんこゝこゝあこゝべこゝ寸こゝ方こゝ人今。こゝ下山通はこゝり
新四こゝこゝこゝこゝこ

むすこうの人乃うちの女に陰こゝろとして男にもぐわら
ぐるみうきゆゑ出障乃井つゐに人と成る事
ゆく井二う儲こゝろもとゝ成とゝの井こう麿をこゝろ
ゐるくゝ事乃ゆゑ二て家人ゐとゝ成ゐ色井出よゐ行とゝ可ず
こゝ成ゝ陰ゝこゝてゝ乃ゝこゝうゝとゝゐりゐみこゝ恠と
いつゝこゝ井つゐゝゆゝこゝの者ゝ出ゐみ毋ゝこゝ者ゐこゝ
わゐゐゐ陰ゐ也ず井こゐ成人して後ゐまゝゝこゝて
まゝ乃ゝ也とゐ〇家ゐ人ゐ陰ゐ也ゝ井こゐ出ゝこゝ者ゐ
ゐに中ゐゐわゝて家ゐこゐ井ゐ也ゝ也を二恠ゝこゝて
こゐこゝこゝゐゝゝゐゝゐゐこゐ者ゐ陰ゐ死し
て後のゐゐゐこゝわゐこゐこゐ現世乃こゐこゐ
わゐず人こゝ恠乃こゐこゐ現世ゐ家ゐこゐいゐこゐ

こゐゐこゝけゝこゝ人ゐ毋ゐこゐ恠ゐ者ゐ乃ゐ者ゐ者ゐ
ゐこゐこゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
こゐ人こゐこゐゐこゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
こゐこゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

家人わるくやちくしに初とうけこと人へつくこはあり
らずそこぶわれのごとこうしまくおこふうこいこんぐう
みてゆそちくしひてロ伝きこびゆえちゆくんとて
のこずつこんきやびるどもこわつれそこてせつうんを
ゞ一才一ちくしに為めるせ神まえちゆかくしむへそ
男乃こ海みくうんやきんどん邪ふとうこて一向れ
意世わ見ちうこるゆくしむわこいくちうくゆう育
ちゞ一脇くそうこれ海こうしゆ神ふ乃兄弟うちゆ神
脇ちうこみゞこあくて以ちんこ家ふの兄ちうくこ婦
ちこのむつこや海くれ以ふ恵乃ちうこ邪つこ幸
ゆうるせつしひし

評曰女乃人陸のすハけ元伊人弟人のまを桃ほあ子ふ

桃のこうこわれれ山まれ弟一ふ天人とあくすとこうす
伊れハ鬼こうまとあくずとうこうり天人れハ男女わる弟一
欲界乃云天こわゆすこ子ふ牛ずくと男天ハ女天
ののざのこれ牛ずとこうり鬼こうまハこうふ世界ゆわじ
こうて女ハうあうずとこうのも
弟二ふハ帝釈こうまとあくず弟三ふハ魔まとあく
ず帝釈ハ須弥山乃いてくきよ対して修羅とふちく
乗わりゆれ女ハうあうず魔まハ一ひ遮乃こうれこうう
りのこわで女こ山こうとゆあうずふ百伝こうのれこ
こわで女ハうあうずふも弟ふこうび人乃こうす
とこうり又こうず鬼ふハ格格まとあくずとこうれし
須弥四別のあこうて七重とふ人のこわる所ふ

…如ハこれはもつてのほかなる也女也と十銭とるべき天
女とるべき人ろくろくもつてせぬ事
の内陰ろうつまの給うわりやこれかりちの
半の女郎物ものつぶりみ憎無紀よろ海うり記
しかるべし

第四十一　行ゆくも陽ものこの人きき事

むかしこの人のろくろい業の帰ものもつせ海くこをこしろ業
入業ろん吉帰うろこ器物行ろりもなるくろん
なるものハ金張とつかまりおいとしてて極意てうもの
しのつ所見やものもの千年てとみ世のゆものはるよもつせ海
主ここかろ海て金張をかまるのものおろくろて
行ろりかりもつるものもこわくころ事の金張をつく

なるこの的笑い吸り密わるべき事也

第四十二　郭隅ゲキ事

むかしのろこものもくこきみどかくて　まず郭隅と
いろ笑院のあるが内みどが作ろい祇多丸祇ゴいまい
いろかりて笑人をもつ○きのこの国所成かろの万長と
定業のこのこのこのこのこのこのこのこわを郭隅ものこわを
国いの設めでこくかれ海ものもこ笑人をもつ○こもこ也
業ものこのこどまつ郭隅とこのこきこて井ものわを
知の金張をこのこのこん業ものこれの業姫わるせこもこて
世ものの笑人ものこのこん業人やてわるみどこて笑人と国用
人て民ものでこ行業ものこのこ海こて郭隅つを
ろこ民このこん業ものこのこ姫ものこのこ海こ笑

[illegible]
[illegible]人とねがひまうさせ給ふ郭隗とおっしゃって
[illegible]人ともをのをのまゐらせいはせ給ふ郭隗とい
ふ者あるなる人知らせ給ひてあれをば
やとりまうさせ給へしとおぼせ
[illegible]人うまいとやうの馬をもとめ
ひ牛を引きうしとやうのものをもとめ
てまゐらせ給ふ郭隗とおっしゃってあれを大官に
なる人はまづ数あるものをもとめ第のものを
ふるまひ給へとおぼせ給ふ
国家わかんとおぼし給ふ
[illegible]

[illegible]
内の諸侯のもとへおぼせ
ひの人情をもとめ給ふ
人諸臣方々のもとへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
評曰郭隗が帝まゐらせ
異人を欲しとの給ふ
[illegible]
許由潁川に耳洗ぎ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
はめうまでこめんへ[illegible]
あづうんとす百姓ハ田畠満作ゆも米穀不
熟ゆ新ゆ[illegible]て年貢をとづけ[illegible]
[illegible]給人代官ハ田畠ゆ不作ゆ年をいつつを
いつゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

そのつりとをくずを釣狩とをくせあるをせてい
ぶとをくるの鄙のー在りるが餌ぢろハ裂きてども
ひるを知らずおうをて食ごうぐうくあるたるぐ
酔をあまをく新ををうむをさるを知ハ泣きぐれまうり
て吟をーをるをかを乗ぐ尺をくをぐくーやをよ泊とば
をうをうをもをそのむ知をれをやーを泊とのをを
ゆゆゆをといへだけをぐーらをかをあぢてもぐをい
をうぢやとををを七新をりゆかぐぐをいをうをて新
人ばをすぐくをうをぐなをさ世のかーをや

角字十四同様愛すと義不をも書をす

むーをうを人ばをうハ角ハ双俳物語をうを同ーやをうをて
ひく不りをうをのせをり俳をのんゆうをかーてんをく

らうぢ少初をに笑西海をくを初ゆをわぢをうをすくを
をあるをとやをくをぐゆの用をもーをらあぢてをくれをを
半ハをく不ゆもうをのやをくをうをゆーをうをゆを
をもれをををうくゆをれをうををうをゆをのを
ゆをぐをりのをを

評曰行ぐゆうの物ををて不をも書のををうを
ゆゆをををを俳物語一部一百余段一段ごをを
むーをうををわをりゆ書ををををりて段をををを
書をてをりをを笑西俳物語ハ大般若経ハ六百余巻云
境古選を初をを十八ぐ十八宝と初を
十八ぐ初ぐをををををを儒ハ論語
をを西をを書をりを第初金の物をを

いく年かも書わけて、親とも子とも、はかなき乃ちひのて
ほの半とをうまれ、くるくるとまはる碁にて、こまくはい
ちばんなりに書わけもその外、うるみ、限と旦那すま
ほし、書屋なる人、やうとをつかんつまうつし
物じてよき半はいつくにかあるとも、わるめりの形ぶ
きりのきるはつ、ふ、こまにてはんぐわれぐこの手乃ぐ
やぐあぐすつ物なりあるへ、つくにたすもも絵文
書物も細こまつて、猛年の、帝こ鞠仕すぐさま
乃半号人、見年のよ、こずめ、こ、こ、ぐ、こ
やこれ、なとこ、ゐ、ほの半、きくつひで見年よ、こ
ありこ、ゐ、ほ、こ、半、いつくにかあるとうこ、ゐ
老ひわぐ、ぐ、ぐ、こ、ぐ、ぐ、こ、ぐ、ぐ、こ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第三十三 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今は三千人かわるがわるやどりされまぢかくく
人に義をすすめ給ふ事ども也みなこれの作なり病ふかきを
ゆるすべきなり三月あまりすぎてやうやく今世
うまれ給ふの作もやはり一概よりて
次は十方人は孔世にうまれて永車風流なりこれ孔
世のごとく今も永車風流にて人
も流行まつる世なれば永車風流も三年延書
三年記孔世の中は猿楽田楽百服人楽風流の
わざびとなる中にみしさりたる人はいかにしたる
うきめ人
次は孔世にうまれ気根つよくして今世作の病を
軍陣にて治すべきなりやはるくしく歩行

利はそなはりて欲は多かりしかりけりやはり命のう
とうのごとく今の人悪事はなはだ病ふかくなりと
いへども迷惑の低病人にうまれたるあさ人也元君
くすしも陽のつくにはいわるべきなりとい
書は多かりて下根なるはいかなるなりや疑ひなく人の
長もうまれつくやうやく三年記は女人の心男の
今の世は五人は男の内のごとく
次は中代人の三年病にて治わるべ
うもの代人は嫉妬なれしてはなはだ病ふかくなりて
明世にて地のうまれたるは今も人なれども人
作なれども代人は人なれども人なれども

とゝのべ

第三十七 ちゝ兵しと第の事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃のこゝろにかゝるの一説とおもひて是をのせ時にのぞみて
はたらくべき事の言葉をかりて是をのせ時の事をこゝろ
をもつくしとわるとや是ぞ了矣記乃作なり也
評曰祖とゝしず了矣記乃石づさとおもひ矣経を作
わるこゝろにたゝかひ石づさとおもひ矣経を作
たるこゝろをもて別魏をうるべくわるくはみるこゝろのみまで
又は内乃強毛山既はこゝろ行にて打ものゝいもしは活
こゝ所にて山陵は仕り物ぐるを城せこゝ所にはりうこゝ
魏とこゝ国乃わるくとば曹操とこゝをもこゝろにもよる呂布
とこゝ本勇大剛の気雄州乃牧はをして活れこゝて
陳登とこゝの人を形こゝて曹操へいこゝせこゝろにくるも叶こゝず
呂布こゝにはりうこゝも乃陳登こゝろにくる曹操へかす

やこゝは呂布山手こゝろの
作でりこゝわるで呂布将軍はこゝへ虎乃ごとく虎を
飼こゝ者にはよる肉食はよる飽せこゝろをひきばこゝ
こゝろにくく違なとゆこゝすべき叶こゝにわるべきこゝ
も叶曹操乃いこゝくこゝろのわるこゝさこゝるをりこゝへば
意民飼ごとく飼て人用こゝにこゝもこゝろ也餌は
能めわるこゝを所めるこゝく知りもくこゝさ用い敵所も
こゝろにはすは知めは能をわるで化多へめりて被はいこゝ
ぶこゝにこゝこゝとのこゝへは呂布やこゝくばるのこと
こゝひこゝこゝみとこゝくまずたこゝつこゝりとこゝりひ
こゝ手にはこゝ民こゝつけてやこゝりこゝつこゝりこゝ地終也
実わこゝ手にはいたずとみこゝり

序文

一日愚ろうん乃ふたりはろひ初て抑さ初をづ是は假名
ばなの書とわきまえて是けてめ冊ろのしろもこそんざ
きづいありはやく濁也事はの童ども見やの乃のるん
行ろそうみして見みづ也ゆ〻くはもの書ふ見て
みじんにくぎちりみ章ろ泡ぞそ書めい
とはぐわぐよ也員わてもしすりのくそ云てづ
ま見乃意ふの角ものこまく見ろ泡の也蠶乃巣と
ふわるまぐ也ふ角ゆまつくはりのづを乃愚ろ氏乃ろ人遠
おろ也ふ双紙地紙とろはつをもはせんとの当周也れ
ぐ人同ま人肝脾肺腎乃め腸わりてめ物ま死し金氷
まゆ去乃ろ人祇ぶ海人万物ま乃ろ見めく佛はよふ

あり僧ふ見ま乃ふ事ありろうづはめ冊乃書人ろあれて
あはをくづくず人命ばいろ孝をもてぐろ事と実し
ちろ涕ろも汗ま乾燥ろうとづも書孝氏ろんま
はちづやてあろとや

于時寛永十三孟陽中幹　江城之旅泊身筆作之

わ[illegible]乃ゆるせ[illegible]のゆゑ[illegible]
し偶法下ゆ寓[illegible]
ぐ[illegible]書ゆ[illegible]す也[illegible]
を[illegible]ゆ[illegible]行乃陋を[illegible]
半[illegible]
人乃[illegible]
薑[illegible]
飲[illegible]
[illegible]

于時寛永十四[illegible]

萬治三年[illegible]二月吉祥日